平成 18 年度 防衛勉強会

平成 18 年 4 月 24 日

大阪防衛協会理事・青年部会

会長 鷲岡 和徳

4 月 24 日玉川のカフェプロシオンにおきまして本会主催の本年度 2 回目の防衛勉強会が執り行われました。今回の講師は中部方面衛生隊長である上部 泰秀氏（うわべ やすひで）1 等陸佐で防衛医科大学を卒業され軍医として第一次イラク復興支援隊にも参加されました。

その支援隊に参加されたときの話をスライドをみながら大変わかりやすくご自身の体験談をまじえご講演をいただきました。

その後食事とお酒を飲みながらそれぞれのメンバーが国防について議論を交わし途中から飯井副会長の司会による上部隊長への何でも質問タイムとなり、場は最高潮に盛り上がりました。

私たち国民が持つ素朴な自衛隊や国防に対する質問に対し隊長はわかりやすくかつ丁寧お答えいただきましたのが印象的でした。

自衛隊は、1992 年以來 10 年以上にわたり、カンボジア、ザイール（現コンゴ民主共和国）、東ティモール等の様々な国で救援物資の空輸、道路整備、物資の陸上輸送、医療、防疫等の活動を積み重ねてきており、これらの経験はイラク復興に必ず役立つものと思います。

当日ある会員から「自衛隊はイラクにいかされて気の毒やな」という意見もありましたが、復興支援隊は基本的に志願制です。彼らは自身の命を懸けてイラクの復興と民生の安定を図るためにイラクの地に赴きます。

そのことは中東地域のみならず日本を含む国際社会全体の平和と安全の為であるという事。日本の独立と安全平和につながるということを理解いただきたいと思います。

なぜ自衛隊による支援が必要なのかという点ですが、多くの国がイラクの国家再建を支援している中で日本は参加しないということでは国際社会の信頼を得ることはできません。

また国民生活を支える石油資源の約 9 割を中東地域に依存している日本にとって、この地域の安定は重要です。そして唯一の同盟国である米国との信頼関係の強化にもつながります。

以上の理由で私たちは灼熱と極寒のイラクの地で復興支援活動をされている自衛隊の方々に對し深い感謝と敬意を表さなければならないと思います。今回の勉強会は大変意義深く私たちの防衛意識の高揚に大きく役立ったものと確信いたします。